

〔ポリエ〕とは、石灰岩地域で溶食作用によってできた広い凹地、平野のことです。
秋吉台エコ・ミュージアムは佐山ポリエと呼ばれる谷あいには建っています。

秋吉台 ただ草が生えていれば良いわけではない！！

9月になっても猛暑が続きました。それでも僅かではありますが、景色は秋の雰囲気を感じられます。中旬以降、雨の日がありました。一雨ごとに秋が深まるといわれますが、早くそうなって欲しいものです。遊歩道を散策していると、草刈りで整備されて草丈の低いところに、秋吉台の秋の花の代表ともいえるセンブリが生えているのが見えます。センブリは他の植物と競争しなくてもよく日当たり良好なところが好みようです。去年の枯れ草におおわれているところでは、どうなっているか心配です。秋吉台の草原は、ただ草が生えていれば良いというものではありません。何が生えているかが重要なのですから。

(写真は9月21日の北山のように)



季節の花 刈られても、小さくても、咲きます！

アキノタムラソウ 草原や林縁などに生えるシソ科の多年草。淡青紫色の小さな花が輪生し、茎に数段につきます。初夏から晩秋の頃まで見ることができます。草刈りなどで刈り取られても、その後に新しい脇芽を伸ばして、草丈が低いながらも咲き続けます。この花が好みなのかブルービーが訪れていました。

ヒナギキョウ 荒地や芝生の中にでも生えるキキョウ科の多年草。糸のように細い茎の先端にキキョウに似た花を1つ付けます。大きさは1cmにも満たない小さな花です。ようやく見つけても、ちょっと目をそらすと見つからなくなることも。キキョウと同じように太い根もあり、まれに白花もあります。

ミシマサイコ 草原などに生えるセリ科の多年草。細い茎が不規則に枝分かれし、その先に黄色い小さな花をたくさん付けます。たくさんあるのですが、写真はうまく撮れません。また昔から漢方薬として利用されてきた薬草でもあります。



オオセイボウ 青い宝石蜂と呼ばれて・・・

ブルービーがいたと知人に話すと、早速見について、直ぐに戻ってきました。ルリモンハナバチではなくてオオセイボウだったとのことでした。それではと今度はこちらが出かけました。花壇のオミナエシの上を、花から花へと忙しく飛び回っていました。なるほど青く輝くような「青い宝石」です。飛んでいるときも目立つので天敵に捕まらないように、身を守るために羽音も立てず、しかも素早く動きます。連日、「青い宝石オオセイボウ」の姿を見ようとカメラを携えた人たちが訪れていました。



ヒシ 枯れ葉といっしょに沈むと思っていたら、一度離れて流れて沈む？

池や沼など比較的浅いところに生えるミソハギ科の1年草。水面に浮いた葉の間に1cmほどの小さな白い花を咲かせます。花が終わった後には葉の根元の水中に果実が付きます。果実は2本の角が生えた鬼のような形をしていて黒く熟し、食用になります。根元で熟した果実は、葉と共に枯れてそのまま一緒に水没すると思っていたのですが、そうではないと初めて知りました。ある日、果実を見ようと葉を引き上げたところ、根元にあるはずの黒い果実がありません。辺りを見ると黒い果実がたくさん水に浮いていました。そうやって遠くへ流れて繁殖するのかも。



ソライロタケ そのまま見たままの分かりやすい名前

数年前、偶然見つけたソライロタケ。竹林を登りながら少し離れたところから見たのが青いキノコでした。初めて見るもので、自然界にこんな色をしたものが存在するのかとも思いました。すぐにキノコに詳しい方に電話したところ、見た目どおりの「ソライロタケ」とのことでした。きれいな淡青色で傘が開くと直径5cmほど。生えていたら遠くからでもよく分かります。今年は気候の影響もあってか少し遅れましたが、会えることができました。



10月の行事

10月18日(土) 化石観察「秋吉台の化石」

秋吉台の化石を観察して、秋吉台の成り立ちを学びます。

10月25日(土) 花の観察「秋の花たち」

秋吉台を散策して、秋の花を楽しみましょう。

